学習プリント

歴史「アジアの民族自決と国際協調」

年　　組　　番

名前

1．朝鮮の三・一独立運動、中国の五・四運動

(1)　表Ⅰに、三・一独立運動と五・四運動の概要をまとめてみよう。

表Ⅰ

	三・一独立運動	五・四運動
年月日	1919年3月1日	1919年5月4日
運動の目的	（例）　日本の植民地となっていた朝鮮の独立を求める運動	（例）　日本が中国に認めさせた二十一か条の要求の取り消しを求める運動
影響	❶　（例）朝鮮総督府は、警察や軍隊を動員して武力で抑えたが、その後、日本政府は政策を転換して、軍人による警察制度を廃止し、朝鮮の人々の集会、言論、出版における一定の自由を認めていった。	❷　（例）中国国民党を結成し、中国共産党やソ連と協力して、民族独立と国民革命に向けた動きを強めていった。

(2)　三・一独立運動と五・四運動の影響について、日本政府の朝鮮統治の変化と孫文の動きに注目して、❶と❷に記入してみよう。

2．インドの民族運動

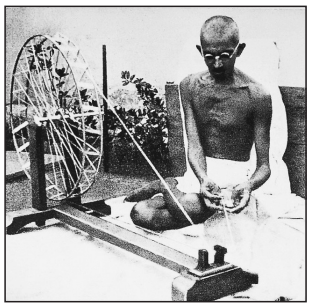
(1)　資料Ⅱの人物名を記入してみよう。

ガンディー

(2)　資料Ⅱの人物が何をしているのか、その意味を当時のインドとイギリスとの関係から考えてみよう。

（例）　当時のインドではイギリスから安い綿織物が流入し、国内の綿工業が衰退していたので、伝統的な方法で作られた綿製品を使う運動のため、糸車で糸をつむいでいる。

資料Ⅱ



3．ワシントン会議と国際協調

(1)　資料Ⅲの❶・❷の取り決めのうち、日本に関わる取り決めの内容を説明してみよう。

❶	（例）　日英同盟を解消する。 日本が得た山東省の利権を中国に返す。 米・英・日・仏・伊の主力艦の保有比率を 5：5：3：1.67：1.67にする。
❷	（例）　米・英・日の補助艦の保有比率を10：10：7にする。

(2)　❶・❷の取り決めに対し、日本の軍部の一部はどのように受け止めたか説明してみよう。

（例）　アメリカが日本の中国や太平洋地域への進出を抑えようとしているとして、会議の結果に不満を持った。

資料Ⅱ　第一次世界大戦開始から1930年までの動き

年	主な出来事	
1914	第一次世界大戦(～1918)	
1915	日本が中華民国に二十一か条の要求を提出(→p.212)	
1917	ロシア革命	
1918	シベリア出兵	
1919	三・一独立運動(朝鮮) ガンディーの非暴力・不服従運動(インド) パリ講和会議→ベルサイユ条約締結 五・四運動(中国) ワイマール憲法成立(ドイツ)	
1920	国際連盟の設立(→p.214)	
1921	ワシントン会議(1921～22) ・日英同盟が廃棄される ・中国の主権を尊重するための条約が結ばれる ・米・英・日・仏・伊5か国の主力艦の保有制限が決まる(米5：英5：日3：仏1.67：伊1.67)	❶
1922	ソ連の成立(→p.213)	
1928	パリ会議(不戦条約) ・国際紛争の解決の手段としての戦争を放棄し、話し合いで解決することを15か国が約束する	
1930	ロンドン海軍軍縮会議 ・米・英・日の補助艦の保有制限が決まる(米10：英10：日7)	❷

本時のまとめ

◆　なぜ、1919年に朝鮮・インド・中国で民族運動が起こったのか、その背景を説明してみよう。

（例）　それまで、朝鮮は日本の、インドはイギリスの植民地となり、中国は日本から二十一か条の要求を受けるなどの干渉を受けていたが、1919年のパリ講和会議で民族自決の考え方が提唱され、東ヨーロッパの諸民族が独立する動きなどがあったため。